

福祉に関すること

まちづくりワークショップ 第3回 まとめ <第2部会：福祉>

日 時：平成21年4月10日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：石川、坂口、茂福、新宅、田岡、田中、山谷、和田、（馬場） 計9人

寝屋川のよいとこ・わるいところを語ろう

寝屋川とは

寝屋川の良さは川と山との自然に培われたまち。そこに特色ある「コト」をつけてまちを説明したい。

大阪と京都の間でどちらにも行きやすい。「ほっこり」と良いまち。

教育は頑張ったが。

これ！と言った売りが無い！

良いこと、良くないことと聞かれてもそれがすぐに出てこないこと。可もなく不可もなく？特徴がない！

寝屋川市を「自分の市」として愛している人が少ないように思う。

寝屋川市は密集イメージでレッテルを貼られている。良い面を打ち出していくべき。

寝屋川の街

物価が安い。住みやすい。便利である。

道が狭く、段差も多いので、高齢者等が一人で歩きにくい。

街並みが、美しく管理されていない！！

駅が汚い！マナーが悪い。

火災が多いように思う。

地域で差が激しい。

自分は何もしない。他の人がどうかして！の傾向が強い。

世の中捨てたものじゃない、誰かが助けている。

寝屋川市の評価

何事も最近是他市より早く行政が取り組んでいる。

仕事が早い（市、図書館）。

市長は新しいことに取り組んでいる。一般人の中学校の先生など。

ゴミの分類は全国でも先駆けて行った。

暖かみがない（市職員）、書類等わかりにくい。字が小さい。

市の職員でも勉強していない人が多い。

寝屋川～福祉の特徴と課題

子育ては寝屋川が一番だったが、比較的福祉に関するネットワークが行き届いている。
事件が多い。特に小学校・青少年。

大きな課題は

子どもが豊かな心で育っていない！！

親が親でなくなった、20代～30代の居場所がない。

「親」の「親」、の問題がある。

住環境も問題か。

問題を抱えた人が寝屋川市全体に散らばっているのではなく、比較的に地域に固まっているように思う。(レッドカードかも?)

結構ベタベタの人間関係が出来ていて、助け合いもあることがよい。

近隣のコミュニケーションが不足している?地域によって。

情報の伝達があまり上手でないかな?

<次回すること>

- ・本日の「子どもが豊かな心で育っていない！！」の視点から福祉の問題へ深めてみよう。
- ・「子ども」に限定しないが、将来の広い人間関係・共助などの課題を追求してみる。

以 上



まちづくりワークショップ 第4回 まとめ <第2部会：福祉>

日時：平成21年4月24日（金）18：30～20：30

場所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：坂口、田岡、石川、新宅、山谷、和田、茂福、（馬場） 計8人

1. 福祉から「子どもが豊かな心で育っていない！！」を考える

- ・寝屋川の福祉を「高齢」「子育て」「障害」「生活」の面から検証してみる。

高齢

- ・誰もがいずれ行く道・・・必ず。
- ・高齢化で独り暮らしが増えている。
- ・最近、火事の発生で高齢者の死亡が増えているのでは。
- ・健康が第一で、病気が困る。
- ・引きこもり（男性の）セルフネグレストが問題。
- ・甘えない高齢者であることが大事。
- ・自立の気がない。
- ・コミュニケーション面では、ITや携帯がむずかしい。
- ・元気で出かけることが大切。
- ・グループホームでの助け合う関係。
- ・介護保険制度で地域ボランティアが減ったようだ。
高齢者の自立支援が課題。

子ども育て

- ・「我が子」の意識が希薄に。子育てノウハウが伝わらない。
- ・子育てはガマンだ。
- ・何が違ってきたのか。
- ・親の変化・家庭の変化・離婚の増大。
- ・問題をかかえる地域で集中し、支える人が不足している。
- ・子どもは施設に来て、自分の「名札」があると落ち着く。安心があって、自律が育つ。
思ってくれる人が居てることが大切。

障害

- ・当事者が参加していない。
- ・情報を受け止められない。
- ・精神障害の方は、受け皿が大切。
地域で受け持てるか。
- ・日常の交流・参加の場や機会が大切。
障害者も引き出し、迎える。

生活

- ・生活保護は行政の責任とされる。
- ・地域や住宅による傾向がある。
- ・地域によっては民生委員になり手が無い。
- ・依存化の問題も大きな課題。
- ・モンスターペアレンツ、イチャモンの病んだ現象も問題。
- ・子どもの隔離の問題もある。
- ・ケースワーカーが不足。
- ・保障などの問題もありケアに踏み込めない。
- ・地域と人間関係の変化に如何に対応するか。
自立の促進が課題。

担い手

- ・行政・民生委員・社会福祉協議会・施設(公・民)・市民ボランティアから、市民としての活動を考える。

2. 考える方向のまとめ

「子どもが豊かに育てて欲しい！！」寝屋川の社会の実現に向けて

「安心」 - 「居場所」(join us)

「引き出す」(扉を開く) - 「自立」

あなたがいるから嬉しい~社会づくり

お年寄りといるから嬉しい~社会づくり

障害者といるからうれしい~社会づくり

隣人といるからうれしい~社会づくり

- ・高齢者を、障害者を、隣人を「引き出す」・「扉を開く」・「背中を押す」・「あとおし」...を考えよう。
- ・自分の役割、存在感(ソフト&ハード)が分かる場と社会をつくろう。

次回すること

- ・「安心」「居場所(join us)」「引き出す(扉を開く)」「自立」から福祉を考え、市民提言の骨格を具体化していく。
- ・高齢者、障害者、隣人を「引き出す」「扉を開く」「背中を押す」「あとおし」の方法を考える。
- ・自分の役割、存在感(ソフト&ハード)が分かる社会をつくるためのアクションと仕組みを考える。

以 上

まちづくりワークショップ 第5回 まとめ <第2部会：福祉>

日時：平成21年5月8日（金）18：30～20：30

場所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：石川、坂口、茂福、新宅、田岡、田中、山谷、和田、（馬場） 計9人

「安心」「居場所（join us）」の必要性と、私たち市民が「引き出す（扉を開く）」「自立に導く」から福祉を考え、市民提言の骨格を具体化していく。

- ・高齢者、障害者、困窮隣人を「引き出す」「扉を開く」「背中を押す」「あとおし」の方法を考える。
- ・自分の役割、存在感（ソフト&ハード）が分かる社会をつくるためのアクションと仕組みを考える。
- ・まず、つながりづくり、声を掛けるからはじまる。広告からはつながらない。

福祉のソフト面の現状

- ・地域福祉は地域と社会福祉協議会で進めている。
- ・地域では、「自治会」が重要だが、市は自主防災の方に力を入れるようだ。
- ・市民活動はコミュニティセンターで、活動拠点は市民活動センター（テーマ型の活動拠点）
- ・コミュニティセンター単位（6コミセン）：2中学校・4小学校・1保育所・まちかど福祉相談所を配置。
- ・新しい動きとしては「こんにちは赤ちゃん訪問」（民生委員・児童委員を中心とした訪問員が対応し、子どもと家庭を訪問）：赤ちゃんの駅（ステーション）事業を始めている。そこから、疲れたお母さん（家庭）を把握できる。
- ・その子の成長を見て欲しい、他と比べるな。子どもに何故を教えない。心力、徳育・思いやりの欠乏。
- ・思いやりの再生（心・力）が必要では
- ・近所の再生が必要では

福祉のハード面の現状

- ・寝屋川市はハード面も充足していると思う。
- ・ただし例えば、保育所は選べる時代で数は足りているが待機がある。公設がコミセン6カ所に1カ所残り民営化の方針となっている。
- ・指定管理者制度では、問題点としては使いにくくなっている。
- ・多様な施設の展開も想定される。例えば、寝屋南地区のシネコン+住宅の中でなど。
- ・安心感をつくる・場の設定が大切だが、例えば、子供の虐待の受け皿をつくっても本人

が来ない。

- ・集まる場は足りている
- ・バリアフリーも課題
- ・心を開いて欲しい（外に、一対一でも）
- ・一つ穴を開ける 繰り返す：突っつく人 「キツツキさん」が必要。
- ・教育が大切、勉強の機会を充実する。

福祉の課題

- ・ソフトもハードも努力されているが、福祉の課題は山積み。原因が分からない。
- ・2・6・2の法則（パレートの法則（2：8の法則））から、全体の中では、頑張る人：2割（自分からやりたい：自燃）、普通の人：6割（働きがあって：可燃）、頑張らない人：2割（絶対動かない：不燃）で構成される。
- ・「不燃の2」が課題で、切り捨てられないが、ほっといて欲しいもある。
- ・子育ても支援が問題、しかし、児童または生徒の保護者間の関係にも課題。
- ・第一歩が踏み出せたら、人間の関係がついてくる。例えば、趣味（女性の人気はパソコン、写真..）によって集まる場など同じ中での活動から呼びかける。
- ・5.30(ゴミゼロの活動)の広がりや、老人会の33もの趣味の活動がある。しかし、老人会の参加は半分もない（11千人/全市）
- ・専門家の役割
- ・地域や人によるが、民生委員（受け持ち370軒/1人）を受けたくないのが現状で、ケースワーカーも然り。
- ・専門家とともに、隣近所の声かけが大切、さりげない見守りが大切。
- ・心開く人は近所の人か
- ・そして、認める、競争で盛り上げる、メリット（得する）を付けて（例えば弁当付いたから参加）
- ・老人～子供までの世代の交流。

おせっかいさんの増殖

- ・安心・居場所の必要性から、私たち市民が引き出す（扉を開く）ために、動くマンパワーを質・量ともに充実・増殖していかなければならない。
- ・「キツツキさん」マンパワーの育成と仕組みと活動をつくる
- ・個々のコミュニケーションから、気付きと工夫が生れてくる。
- ・その担い手を「キツツキさん」運動（仮称）で取り組めないか。
- ・目標、中間ゴール決めて、続けることが大切。

まちづくりワークショップ 第6回 まとめ <第2部会：福祉>

1. 寝屋川のよいところ・わるいところ

寝屋川とは / 寝屋川の良さは川と山との自然に培われた、大阪と京都の中間の「ほっこり」と良いまち / 密集イメージでレッテルを貼られているが、良い面を打ち出すべき。

寝屋川の街 / 物価が安き、便利で、住みやすい。 / 地域で差があるが、道が狭く、段差も多いので、高齢者等が一人で歩きにくい。最近火災が多いよう。

寝屋川市の評価 / 教育・ゴミ・福祉・子育て何事も最近是他市より早く行政が取り組んでいる。 / 最近、事件が多い。特に小学校や青少年で、子どもが豊かな心で育っていない。 / 親と親の問題や住環境も問題か。

2. 寝屋川の福祉を「高齢」「子育て」「障害」「生活」の面からみて

安心・居場所の必要性和、私たち市民が扉を開き自立に導くを考える
高齢者、障害者、困窮する隣人を「引き出す」「扉を開く」「背中を押す」「あとおし」...の方法を考える / 自分の役割、存在感（ソフト&ハード）が分かる社会をつくるためのアクションと仕組みを考える

思いやりの再生（心・力）が必要では
心を開いて欲しい（外に、一対一でも） / 一ヶ穴を開ける 繰り返す 突っつく人 「キツツキさん」の育成 / 教育・勉強の機会を考えていく。

近所の再生が必要では
隣近所の声かけが大切・さりげない見守りが大切 / 認める・メリット（得する）を付けて・競争で盛り上がる / 世代の交流（老人～子供まで） / 自らのスキルアップ / 心力、徳育を考える。

集まる場や施設は足りているがバリアフリーが課題
施設整備や施策は一応充実している / それを活かすハードのバリアフリーが求められている / ユニバーサルデザインのまちづくりに取り組む。

3. ボランティア人材を育む市民活動に取り組む：おせっかいさんの増殖

「安心」「居場所」の必要性和、私たち市民が「引き出す（扉を開く）」「自立に導く」から福祉を考え、動くマンパワーを質・量ともに充実・増殖していかなければならない。個々のコミュニケーションから、気付きと工夫が生れてくる・その担い手を「キツツキさん」育成運動（仮称）で取り組めないか。目標、中間ゴール決めて、続けることが大切。

まちづくりワークショップ 第7回 まとめ <第2部会：福祉>

日 時：平成21年6月19日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟4階第一委員会室

出席者：石川、坂口、茂福、新宅、田岡、田中、林、山谷、和田、（馬場） 計10人

1. 前回のふりかえり

- ・前回まとめによりふりかえり。

2. 市の福祉施策の現状

- ・資料による確認及び各自の報告・資料提供を受ける。
- ・基本的には今の施策で本市は先進的に取り組まれており、評価される。
- ・外へのPRが下手で、もっとアピールして理解を広げることが必要ではないか。
- ・しかし、現実には厳しいところがあり、これを補完していくことが大切。
- ・意外と相互に取り組みが理解・認識されていないことがわかった。
- ・テーマ分野の理解と連携が課題と考えられる。

3. 意見交換会

- ・問題は「2・6・2」の、2割（自分からやりたい：自燃）6割（働きがあつて：可燃）2割（絶対動かない：不燃）の「不燃の2」が課題で、切り捨てられないがほっといて欲しい人や問題に対処し続けることが大切。
- ・「自燃2と可燃の6」は、市の施策や社協、地域での取り組みでいける。その充実強化を考えていきたい。
- ・「不燃の2」が課題対応は如何にすべきか。
閉じこもる人
- ・自立支援につきる。
近所のマンパワーが最も効果的で大切。
近所の再生が必要
近所の思いやりの再生（心・力）が必要
人が必要、どう育て、増やすか。
ボランティアする人も不足
高齢化
市民の意識付けが大切
- ・ボランティア 認められることが大切
- ・若い人、お母さんで引き込み、よろこびを共有する。
- ・団塊の世代など会社人間を、地域で受入れる。
会社でも教えるべき
「キツキさん」マンパワーの育成と仕組みと活動をつくる。
- ・現実は厳しい
- ・民生委員はトータルに取り組んでいる
- ・分野のつながりが必要
バリアフリーの課題も大切。
- ・ユニバーサルな社会とまちを構築する。地域交流カフェなど場も考えよう。

4. 今後の進め方

- ・全体スケジュールの確認
- ・次回日程
7/3(金)18:30
7/17(金)18:30

まちづくりワークショップ 第8回 まとめ <第2部会：福祉>

日 時：平成 21 年 7 月 3 日（金）18：30～20：30

場 所：市役所議会棟 4 階第一委員会室

出席者：石川、坂口、茂福、新宅、田岡、田中、林、山谷、和田、（馬場） 計 10 人

5．前回のふりかえり

- ・前回のまとめをふりかえる。

6．各自からの提案と協議

やはり「不燃の2」の閉じこもる人の自立・自覚が横断的で究極の課題となっている。

- ・ボランティア不足は発信に問題、ボランティアでメリットを受けれる制度。（ボランティア通貨）
- ・福祉の基本はノーマライゼーションの社会をつくりあげる。
- ・地域で声かけ、挨拶を運動化していく。
行政にボランティアの担当セクションが必要。
近所のマンパワーが最も効果的で大切。
- ・近所の思いやりの再生（心・力）から、人をどう育て、増やすか。
- ・近隣住民のネットワークづくり（安否確認のシステム）、電話・電気・水道検針・郵便・新聞配達などあらゆる面での連携を。
多様な「場」づくりも進めるべき。
- ・商店街の空き店舗、空き農地などを活用し、高齢者や障害者への貸し出しなどを行う。
- ・地域交流カフェなど場も考えよう。
バリアフリーの根本課題も大切。
- ・ユニバーサルな社会とまちを構築する。

7．第2部会(福祉)の提案内容を固める

- ・議論の集束として、次の3点が第2部会(福祉)の提案として絞れそうだ。
究極、ボランティア人材の育成にあたる。
- ・行政にボランティア推進課を設置
- ・市民組織として『おせっかい学会』を設立
「キツツキさん」育成
- ・市民ネットワークの形成
活動を育成：多種多様な仲良しから競争・連携
情報を共有
学習を協創

ねやがわふくしナンバーワン宣言。

- ・福祉都市寝屋川をPR
大人も子どもも古くからの人も新しい住民も「寝屋川大好き」都市へ
- ・寝屋川やさしいスタイルを提唱
おしゃれライフを寝屋川ブランドに
ユニバーサルデザイン都市をめざす。
- ・バリアフリーを整え運営
施設と街の活用からバリアフリーへ
- ・バリアフリーからユニバーサルデザインへ
心・力の創造と連携

8. 今後の進め方

- ・全体スケジュールの確認：報告会 8/8(土)10:00～11:00
- ・次回以降の日程：第9回 7/17(金)18:30～ : 第10回 7/31(金)18:30～

<p>部会名</p>	<p style="text-align: center;">第2部会：福祉に関すること</p>
<p>分野に対する 考え方</p>	<p style="text-align: center;">ねやがわ24万おせっかい市民の創造</p> <p style="text-align: center;">私たちは 市民が支え支えられる福祉のまちから ねやがわやさしいおしゃれブランド を創造していきます</p> <p>寝屋川市にとって、福祉の取り組みは成果であり、特徴です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市の良さは川と山との自然に培われた、大阪と京都の中間の ほっこり とした、便利で住みやすいまちです。 ・その中で「福祉」は他市より一歩進んで取り組まれているという面で本市の住みやすさの特徴の一つとなっています。 ・しかし、「安心」「居場所」の必要性和、私たち市民が「心の扉を開く」「自立に導く」から福祉を考え、動くマンパワーを質・量ともに充実・増殖していかなければなりません。 <p style="text-align: center;">支え支えられる生きがいと安心の寝屋川スタイルの追求が鍵です。</p> <p style="text-align: center;">私たち市民が、扉を開き自立に導くことが安心の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の現場では、とじこもるなど「不燃の2割」が課題で、この問題を抱えているだろう隣人を「引き出す」「心の扉を開く」「背中を押す」...の方法が重要と考えます。自分の役割、存在感(ソフト&ハード)の自覚できる社会をつくるためのアクションと仕組みが鍵と考えます。 <p style="text-align: center;">思いやりの再生(おせっかい)が大切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心を開いて欲しい、お互いの心の再生が大切です。このため、一つ穴を開ける、繰り返し突っつく人/「キツキさん」の役割を担える人の育成を、活動しながら取り組むことが重要です。 <p style="text-align: center;">近所の再生が大切</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣近所の声かけの大切さ。さりげない見守り、存在を認めることの大切さ。世代の交流(老人から子どもまで)から、自らのスキルアップで、心力、徳育をつくりあげることにつながります。 <p style="text-align: center;">まちのバリアフリーの環境が求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉の施策や施設整備は一応充実しており、それを活かすハードのバリアフリーから、次のユニバーサルデザインのまちづくりが大切です。

<p>提 言</p>	<p>このため『おせっかい学会』を設立し、ボランティアの 人材の育成と生きがい創出に取り組みます</p> <p>第1ステップ:分野を超えてボランティア人材を育む市民活動として、 おせっかいにも『おせっかい学会』を私たちが設立し「おせっかいさん」 の増殖に取り組みます。《市民》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お節介とは迷惑になるような余計な世話を焼くことですが、福祉の現場では「不燃の2割」の問題を抱えているだろう隣人の「心の扉を開く」「背を押す」の おせっかい が喫緊の課題です。 おせっかい学会は市民組織として、発起人は「福祉部会」から広げ設立します。 ・個々のコミュニケーションから、気付きと工夫が生れてくる。そのため、多様な活動や学識経験者などとの連携に取り組みます。 ・基本は挨拶から『声かけ一番』『見守り二番(見張りはダメ)』がモットーです。 ・おせっかい市民の『キツツキさん』を研修などをおし育成していきます。 多種多様で元気な市民活動のネットワーク形成がキーポイントです。 活動を育成：多種・多様な仲良しから、相互啓発・連携の強固なグループの活動(パフォーマンス)・発信を高める 情報を共有：それらが緻密に情報を共有する場や機会をつくる 学習を協創：そのための学習の場や機会を共有する <p>行政に「ボランティア推進課」を設置していただきます。《行政》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民の連携のため、行政との協働が必要で窓口を求めます。 第2ステップ：ねやがわ福祉ナンバーワンになろう《市民・行政》 ・福祉都市寝屋川をピーアール：大人から子どもまで全市民手を携えて「寝屋川大好き」の都市を目指します。 ・寝屋川やさしいスタイルを提唱：福祉の溢れる やさしい寝屋川おしゃれライフ を「ブランド」にしていきます。 ・このことが、住み続けるまちのアイデンティティに醸成されます。 <p>第3ステップ：ユニバーサルデザイン都市をめざして《行政・市民》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいおしゃれライフの環境は、まちのバリアフリーを整え、施設とまちの活用から、ユニバーサルデザインのまちが目標となります。 ・このため、バリアフリーに積極的に取り組むとともに、そのソフト基盤の一つとして、きめ細かで双方向の情報媒体の「CATV」を持つことも一つの方法です。《行政》
------------	---